

## 論文要旨

学位論文題目 省察的実践者をめざす学びと教育 ―大学院日本学科における実践

氏名 佐野香織

本論文は、東欧の大学院日本学科において、ことばの教育の枠組みを問いなおす中で、互いに省察しあいつながら探究を行う大学院生の学びを検討し、社会を展望することばの教育と学びを考察したものである。

日本学研究の伝統のある東欧において、ことばの学びは、知識教授、準備教育としての日本語教育という自明の構造の下に存在してきた。しかし、多様な興味・関心やテーマを持つ大学院生が共に学ぶ中で、異なる他者とどのように学びあうのか、新たな学びへの問い直しと再構築が求められてきている。

本論文では、上記の文脈において、筆者の教育実践を軸に、この教育実践を行うに至る筆者の省察と、その活動を実践した大学院生の学びを明らかにし、記述した。実践の活動としては、大学院生がそれぞれの興味・関心を基に行った日本語による専門分野についての活動、ブログ型専門分野コミュニケーション活動（ブログ型活動）を取りあげている。

本論文では、まず1章で、本論文執筆の背景と執筆動機をまとめ、全体の構成を示した。2章では東欧の高等教育機関日本学科における課題を概観した。その上で、基礎知識の教示伝達から専門分野への応用という一元的な枠組みから、人を軸として社会や状況における学びの中で捉えていこうとする方向へ、ことばとことばの学びの問いなおしを提起した。そして、学びは学術的な専門分野によってもたらされるだけでなく生活や人生の中にあることを主張し、ことばを使う営みの中で、人と人、人と場、人と環境の中で学ぶ過程をことばの学びとした。

これを踏まえ3章では、問いなおしの理論的系譜として省察理論を概観した。日本語教育においては個人志向の高い「次のより良い実践」の範囲に留まりがちであること、組織、社会を展望するエンパワーメントとしての位置づけは薄いことを指摘した。

4章では、おとなの学びの特性について概観し、教育者、学生、実践に関わる人々が、個人から組織、社会を展望しながら学ぶ、学びを培う学びの概念を提示した。そして、筆者の省察を軸として、東欧の大学院日本学科の教育者としての筆者、大学院生の学びの展開を見ていくことを述べた。

5章では、研究のフィールド、本論文における研究枠組みを整理し、実践における活動の詳細を説明した。そして研究課題と研究の記述方法について述べた。

続く6章から9章では、筆者の実践の省察を軸に行った実践を見ることで、教育者としての筆者の学びと、ことばの学びを自ら培う実践を行う大学院生の学びを見てきた。6章は、筆者がブログ型活動に関わるまでを含めた筆者の省察を跡づけたものである。

まず6章では、筆者がブログ型活動に関わるまでを含めた筆者の学びの展開を取りあげた。そしてこの

展開は、他者との相互省察を通して、様々な視座を持ち、他者に開きながら生涯にわたって学ぶことであることを記述した

7章から9章では、実践の対象であるブログ型活動を巡る研究を取りあげた。7章では、個人のブログ型活動に参加する異なる興味・関心を持つ参加者の学びのプロセスを検討した。時系列でその参加の様相を分析した結果、それぞれの興味・関心について、他者の興味・関心に、自分の共感や葛藤、疑問も出し合いながら、ブログ型活動で継続的に学んでいる様相が分かった。この学びは、個人の中に何らかの「テーマ」や軸足となるような興味・関心がある場合、自らの学びも他者に拓き、そして相互省察もしながら長期的に学びを進める可能性があることが示唆された。そしてまた、ブログに、異分野へ接近、接続をしながら様々な文脈を横断し越境して学ぶことを可能にする「境界的オブジェクト (boundary objects)」(Star& Griesemer, 1989) 的な働きを見出しながら他者と学んでいる様相も見られた。

8章では、7章で取りあげたブログ作成者の個人の学びの展開の様相について検討した。活動全体を通して、規定されたことばではないことばの構築、他者支援、やりとりで他者と育む学びが見られた。

9章では、授業内で教員が関わる活動未実施の場合のブログ型活動を取りあげ、個人の学びと社会へ広げる学びの様相について見てきた。9章のブログ作成者には、他者と共に、自分と他者双方の学びを創りながら、静かに社会を志向した変革を試みる展開が示唆された。また、この学びの展開には自分自身の省察と、他者と省察を行う協働探究が関わることを指摘した。

最後に、10章では本論文で取りあげた活動における学びの総括として、教育者、大学院生の学びの展開における前提と前提を問いなおしていくことの重要性、そのためには折りあいながらも協調的な場 (conviviality) を創っていく協働の姿勢が求められること、さらにこの協働の場において相互省察をしていくことは重要であると共に困難も伴うことをまとめた。そして、この学びをめざす提言として、1) 個人の学びの前提を長期的・包括的に見渡し学び続けることを可能とする機会作りが重要であること、2) 協調的な相互省察につながる越境の学びの場、仕組みのデザインが必要であること、3) 互いに省察しあいながら探究を行うこと、の3点を述べた。